



HATTORI

〒701-0151岡山市北区平野620
TEL (086) 293-2111 FAX (086) 293-2112
<http://www.hattori-k.co.jp> E-mail:info@hattori-k.co.jp



環境にやさしい
植物油インキを使用



見やすく読みまちがえにくい
ユニバーサルデザインフォントを
採用しています。

CSR REPORT ✦ 2019

服部興業グループ CSRレポート
2019.4.1-2020.3.31



CSR REPORT ✖ 2019

CONTENT

02	トップメッセージ
03	経営理念
04	組織図
05	SDGsへの取り組み
07	トピックス 「次の100年に向けて。“木材の活用で持続可能な社会の実現を”」
09	経営理念を実現するために(組織統治)
11	健全な企業風土づくり(人権)
13	従業員一人ひとりが活躍できる環境づくり(労働慣行)
17	持続可能な環境への取り組み(環境)
19	法令を遵守した事業活動(公正な事業慣行)
20	お客様の安心と満足のために(消費者課題)
21	地域の皆様とともに(コミュニティへの参画)
25	第三者意見

CSRレポート編集方針

私たちは経営理念のもと、日々の事業活動を行っております。

その報告書としてCSRレポートを作成するにあたり、世界のすべての団体に適用可能な社会的な責任の国際規格である『ISO26000』を手引きとして活用しています。

同規格のガイドラインに従い、以下の7つの原則に則っています。

7つの原則

①説明責任 ②透明性 ③倫理的な行動 ④ステークホルダー ⑤法の支配の尊重 ⑥国際行動規範の尊重 ⑦人権の尊重

私たちの活動を以下7つの中核課題に分類し編集しています。

7つの中核主題

- 6.2 組織統治
- 6.3 人権
- 6.4 労働慣行
- 6.5 環境
- 6.6 公正な事業慣行
- 6.7 消費者課題
- 6.8 コミュニティへの参画及びコミュニティの発展

服部興業グループの7つのカテゴリー

- 経営理念を実現するために(組織統治)
- 健全な企業風土づくり(人権)
- 従業員一人ひとりが活躍できる環境づくり(労働慣行)
- 持続可能な環境への取り組み(環境)
- 法令を遵守した事業活動(公正な事業慣行)
- お客様の安心と満足のために(消費者課題)
- 地域の皆様とともに(コミュニティへの参画及びコミュニティの発展)

創造的な仕事

“利他の心”と“自律思考”

新型コロナウイルス感染症が人々を苦しめ、様々な活動自粛で多くの方々が仕事や教育などの権利を奪われてしまいました。大変な時ですが、お互いが支え合いながら、人を助け、地球環境を守って行くことが求められています。

また、ウイルスとの共存や新しい生活様式が必要な今こそ、私たち一人一人が“利他の心”と“自律思考”で行動しなければならないと考えます。自分や周囲の大切な人、そして社会を守りたい、そんな時に頼りになる羅針盤がSDGsの17のゴールと169項目のターゲットだと思います。

昨年1年間の私たちの活動は決して十分ではなかったかも知れませんが、新しい挑戦には多くの困難がありましたが、その都度何度も自分本位な判断を修正してくれたし、幅広い視野を持つことを助けてくれました。これからも引き続き、「社員の幸福と社会の進歩発展への貢献」という企業理念の実現に向けて、CSRそしてSDGsに取り組めます。

世界的視野に立つ

服部興業グループは地方の小さな会社ですが、SDGsに取り組むことは、まさに世界的視野に立つことであり、世界と繋がっていると私たちは考えています。

当社の行動規範である“服部フィロソフィ”の中に「高い目標を持つ」という項目があります。高い目標を設定する人には大きな成功が得られる、だから常に明るく前向きにチャレンジして行くことを大事にしようという考え方です。日々の仕事で世界を意識することはほとんどないかも知れませんが、SDGsは私たちが外部の多くの人々、そして世界とも繋がるチャンスをもたらす、大きな勇気と誇りを与えてくれました。実際に、多くの方々に当社のビジョンについて話をする機会がありました。また、新たなパートナーとの取引開始やリクルートの成果にも繋がりました。何より、委員会のメンバーを中心とした活動は社内の意識変革をもたらしてくれていると感じています。

服部興業グループは、2020年度も“CSR”とともに走り続けます。今年度の全社スローガンは「創造的な仕事」をする。社員一人一人が、“利他の心”と“自律思考”を意識し、日々の地道な創意工夫に努力します。そして、多くのパートナーとの協働によって、新たな企業価値を創造することが可能だと信じています。これからも、皆様と“豊かで持続可能な社会”の実現に向けて取組んで参ります。



代表取締役社長
服部 俊也

実践



牛窓本宅広間に“実践”の書が掲げられている

ミッション

正しいことを実践し、
社員の幸福と社会の進歩発展に貢献します

ビジョン

人づくりを原点に仕事の品質、安全、環境を追求し、
人々の豊かな暮らしを実現する地域ナンバーワン企業を目指します

バリュー

経営信条「3つの満足」
顧客の満足・社員の満足・会社の満足

CSR方針「社業発展、社会貢献」
SDGsへの取組

行動規範

家法・考働基本・行動指針・5S活動・服部フィロソフィ

※服部フィロソフィ ▶09ページ

家法



三代目 服部平九郎



経営信条

三つの満足

お客様に満足して頂くことが、社員の喜びであり、
会社に発展をもたらすものと確信しています。

1 顧客の満足

期待された以上のサービスの提供

2 社員の満足

生きがいのある仕事、自己の成長、生活の向上

3 会社の満足

適正な利潤の獲得、利益の分配

行動指針

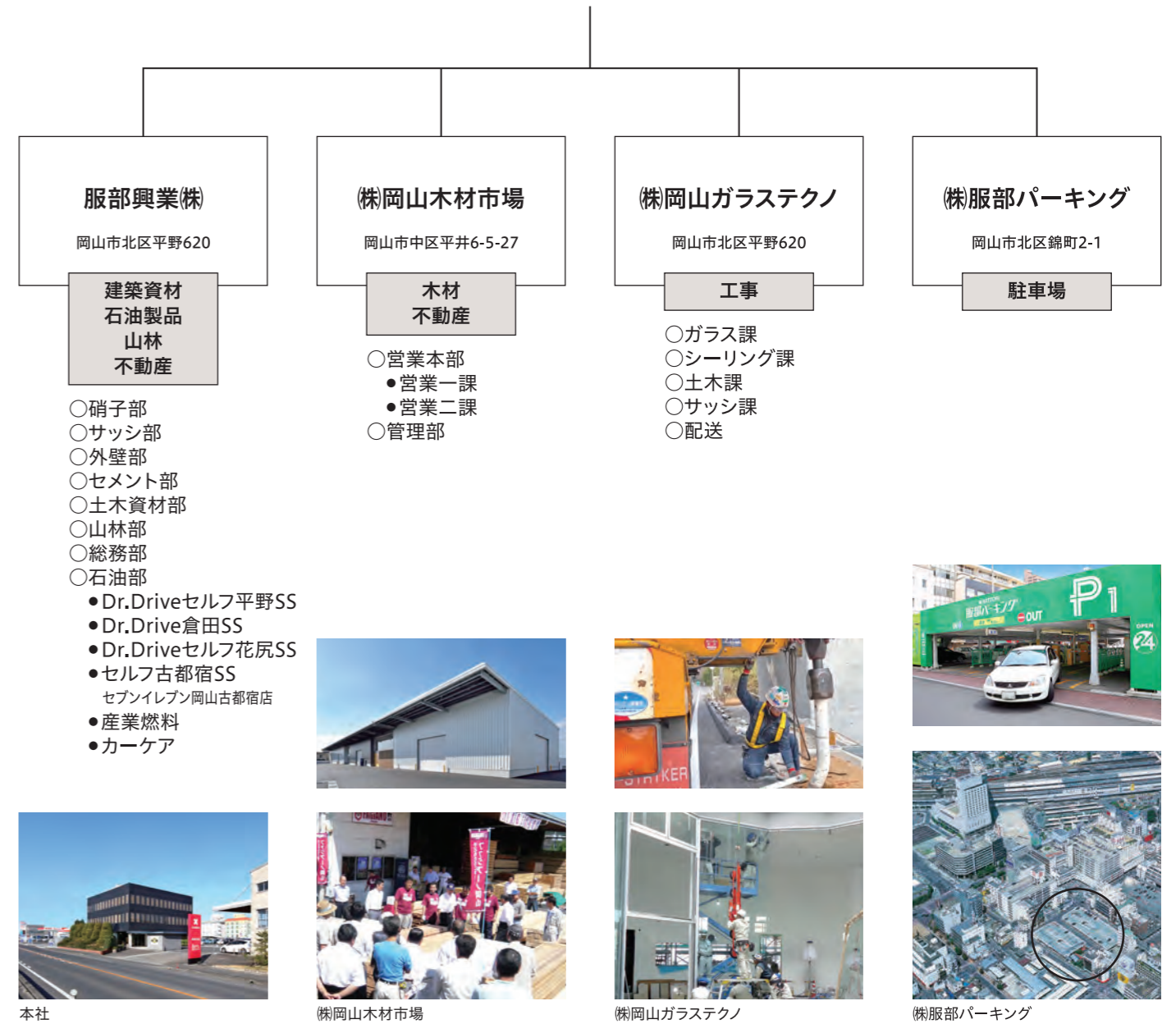
即反応・即実行 仕事に気魄と気働き

考働基本

	好感	安心感
即反応・即実行	<ul style="list-style-type: none"> 感謝の気持ちを表わそう 自ら進んで行動しよう 理解する人になろう 	<ul style="list-style-type: none"> 約束は守ろう 報告はすぐしよう 勇気を持って継続しよう
気魄・気働き	<ul style="list-style-type: none"> 身だしなみを整えよう いつも笑顔で接しよう バイタリティーでやり遂げよう 	<ul style="list-style-type: none"> 相手の立場で考えよう 自信を持って行動しよう 成功への執念を持とう

服部興業グループ

グループ売上高：77億円(2019年度)
グループ人員：144名



本社



(株)岡山木材市場



(株)岡山ガラステクノ



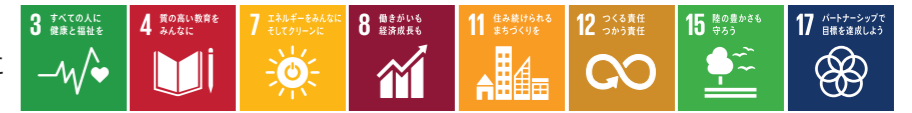
(株)服部パーキング



SDGsへの取り組み

服部グループが取り組むSDGs

本業を通じて持続可能な開発目標の実現に努力します。



SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

世界を変えるための17の目標



SDGsとは、Sustainable Development Goalsの略称です。2015年9月の国連サミットで採択され、国連加盟193か国で2030年までに達成する目標です。エネルギー問題や気候変動、教育や健康、さらには働きがいや経済成長も踏まえたもので、私たちの企業活動と目的が一致するものも多くあります。服部興業グループでは2018年4月7日にSDGs宣言を行い、成長目標を定めました。今後も我々が取り組むべきゴールに向けて事業を行っています。

新型コロナウイルスへの対応

従業員・家族の健康と安全および安定した事業継続のため、グループ各社共通して以下の点に取り組めます。

3 健康と福祉を
従業員の健康推進

マスク着用、手洗い、消毒液での除菌を推進しています。2020年5月上旬にマスクと消毒液の配布も行いました。毎朝の掃除と5Sで、清掃・清潔、職場環境の整備に努めています。

4 質の高い教育を
リモートワークの推進

オンライン会議システムを活用し、会議・社内勉強会を実施しています。今後は在宅や社外でも業務ができるよう、環境整備にも取り組み、ワークライフバランスや業務の効率化にも繋げていきます。

8 働きがいも
働きやすい環境づくり

臨時休校等に対応した、特別有給休暇制度を創設しました。これを機に、育児や介護等の支援制度を見直し、従業員のサポート体制を整えていきます。

17 パートナシップで
利他の心を大切にします

服部フィロソフィの一つである、「利他の心」を大切に、困っている人の役に立てる仕事を模索します。

SDGs取組結果と2020目標

部門	2019目標	対象	2019結果	達成率	2020目標	対象
グループ全体					マスク、うがい、手洗いの励行 インフルエンザ予防接種の励行と支援 労働災害の防止 資格・免許取得推進による人材育成の強化 健康経営優良法人認定の継続 定期健康診断実施と再検査フォロー	3 8
硝子部	複層ガラス6,000㎡	11	4,995㎡	83%	複層ガラス6,100㎡	11
サッシ部	内窓、ペアガラス交換工事30件	11	28件	▶18ページ 93%	①内窓、ペアガラス交換工事30件 ②勉強会、研修会へ積極的に参加	4 11
外壁部	耐震パネル率80%・30,000㎡	11	75%・27,500㎡	92%	①耐震パネル率80%・30,000㎡ ②ALCリサイクル現場3件/年	11 12
セメント・ 土木資材部	防災関連商品4件	11	7件 *鋼製堰堤納入2件 *高潮対策工事矢板納入4件 *生石灰納入1件(掘削土の水分除去)	175%	①防災関連商品6件 ②産業廃棄物低減への貢献 (セメントを使用した改良土の提案、 生石灰による搬出土の産廃扱い低減)	11 12
石油部	タイヤ販売におけるエコタイヤ比率30%以上 マイカーリース契約におけるエコカー比率90%以上	7	45% 88%	150% 98%	①タイヤ販売におけるエコタイヤ比率55%以上 ②マイカーリース契約におけるエコカー比率90%以上 ③セブンイレブンでのフードロス前年比20%削減	7
山林部	間伐45ha 希少種の確認3件 環境教育4件 山の便り更新36回	15 15 4 17 15	19.6ha 2件 (コテングコウモリ、ニホンカワトンボ) 4件 (CO-OP、森づくり、環境教育、山林研修) 25回	▶17ページ 44% 67% ▶14・22・23・24ページ 100% 69%	①土壌条件改善により洪水防止への寄与(間伐40ha) ②貴重な動植物の生育環境確保(山の便り発信30回) ③教育の充実(労働災害0、環境教育5回)	4 15 17
総務部	健康診断再受診率100% 健康フポイント情報の発信1回/月 インフルエンザ予防接種100% ストレスチェック実施率100%	3	63% 毎月1回の発信 97% 99%	▶12ページ 63% ▶12ページ 100% ▶12ページ 97% ▶12ページ 99%	①健康診断再受診率100% ②ストレスチェック実施率100% ③WEBを活用(会議・研修・打合せ・テレワークの検討、実行)	3 4 8
株岡山 木材市場	合法木材11,000㎡ 県産材3,250㎡ 高品質材5,100㎡ ペレット販売1,000袋 木工教室開催2回	15 7 12 11 17	8,377㎡ 2,242㎡ 3,753㎡ 1,300袋 3回	76% 69% 74% 130% ▶23ページ 150%	①合法木材の取扱量 9,700㎡(前年比116%) ②ペレット販売量 33t(20kg×1,650袋)(前年比127%) ③木工教室開催3回(前年比100%)	4 7 12 17
株服部 パーキング	エコキャップ500個/月	11	500個/月 達成	▶18ページ 100%	new 健康(歩行歩数の記録、飲酒者割合の減少、喫煙者の減少) new 入庫車の安全確保(場内外での事故回避) new AEDの受講 エコキャップの回収 500個/月 new ゴミの分別処理(業者回収→燃えるゴミ、燃えないゴミ(缶、瓶))	3 4 8 12
株岡山 ガラステクノ	硝子部、サッシ部受注物件の取り付け工事	17	複層ガラス4,995㎡・内窓他28件	▶18ページ	new 残業時間の削減と週1回のノー残業デーの実施 new 退勤～出勤まで10時間のインターバル実施 new 室内完全禁煙化・ストレスチェックなど福利厚生充実 new 月1回の安全周知会の実施	3 8

次の100年に向けて。“木材の活用で持続可能な社会の実現を”

2019年、岡山木材市場は事務所・倉庫を新築しました。

【林産業の一員として木材流通の中核を担う存在で在り続ける】という、継続・挑戦の意思表示です。創業の木材事業で、人々の快適な暮らしと地球環境に貢献し、持続可能な社会の実現を目指します。



県北・真庭の落合山林

真庭市・旧落合地区に所有する380haの山林はSGEC認証林として持続的森林経営を評価された山林です。計画的に伐り出される木材や秋の松茸など豊かな森の恵みを享受しながら、動植物に配慮した管理を行っています。研修やインターンシップを通じて森と人との関わりを発信し、この森の新たな価値を創造していきます。



▶ 事業を通じて果たす役割

● 地産地消がもたらすもの

岡山県は松の生産量日本一の松王国です。岡山木材市場では地産地消を推進し、松等の県産材の取り扱いに力を入れています。岡山県の木材産業の活性化のみならず、輸送距離の短縮からなる輸送時の排気ガス等の環境負荷の軽減を目指しています。

● 建材商社との同居で生まれるエコ

岡山木材市場は大手建材商社のジャパン建材株式会社様と軒を連ねており、木材を求めに来られたお客様は同時に建材も購入可能です。どちらも揃って便利だけでなく、本来別々の場所で購入していたものが同時に揃うことで移動負担が軽減でき、省エネ・省力化に貢献しています。また、お互いの情報交換でマーケットの動きを察知し、お客様のニーズにスピーディーにお応えできるという強みもあります。

● 日々誇りある仕事を

木材は様々な用途で利用され、大変長持ちする製品です。山で育ち伐り出された木材が製材所で加工され、岡山木材市場へ、そして岡山木材市場からお客様の手に渡り、様々なものに形を変え、何年も共に歩いていくことになります。事業を通じて環境保全に貢献し、また、お客様の人生に寄り添っていく製品を取り扱うことに誇りを持って日々業務を行っております。



特別市での商品プレゼンテーション



雨水貯留槽

▶ 新たな設備を活用した取り組み

● 新社屋に盛り込まれた配慮

新事務所・倉庫は断熱性に優れ、最新の耐震基準に基づいて設計されています。大雨の際に地下貯留槽に雨水を溜め近隣の洪水を防ぐ雨水貯留槽を導入するなど安全・健康・省エネに配慮した建物になっています。

階段の踊り場には服部興業のルーツを覗ける3枚の写真が掲示してあります。また、場内はおかやまマラソン開催時に、ボランティアの方々の駐車場や休憩所としても利用されます。

● お客様のニーズに応える

岡山木材市場は木材をミリ単位でカットできる高精度の木材加工機を備え、お客様の要望にお応えできる体制を整えています。これにより、施工や運搬の省力化にも繋がっています。

● 木の良さを知って頂くために

事務所の2階には多目的ホールがあります。普段は会議などで使われますが、木材に関する研修会や勉強会も行われています。木製フローリングの床が日光を柔らかく反射し、温かみのある落ち着いた空間になっています。また定期的に地域の子供向けに木工教室を開催し、実際に木材に触れて頂く催しを行っています。



多目的ホール



加工機

▶ かけがえのない自然を次の世代へ

● 木材のエコ循環

木は伐られた後にその身を余すところなく、製材時に出るおがくずさも、ストーブの燃料や猫砂として役立つペレットとして利用されます。山林部で間伐時に出た端材や未利用木材は真庭市にある集積基地に運ばれ、バイオマス発電の燃料になります。また、木を伐った後には次の世代に向け新たに若木を植林し【育てて・伐って使って・また植える】というサイクルが形成され、木の絶対量が保たれます。また、若木は成長過程で多くのCO₂を吸収します。木を伐って使うことで木材内にCO₂を固定でき、環境保全にも繋がります。

● 森がもたらす恩恵

森林環境は山だけでなく、川や海、人々の生活に関係しています。木の根が土を保持し、降雨時に土砂の流出を防いでいます。落ち葉は養分となり、山水と共に川から海へ流れ、豊かな海を作ります。逆に木の無い山は土を保持する力が弱く、土砂災害や、流出した土砂による増水で水害の危険性が高まります。

豊かな山々の存在が、私達の日々の暮らしを守ってくれています。



ペレット



真庭バイオマス発電所
“出典：一般社団法人真庭観光局HPより”



“出典：林野庁HP「森林経営管理制度について」より”

経営理念を実現するために(組織統治)

経営や仕事、人生の哲学「服部フィロソフィ」

服部フィロソフィは、人として正しいことを実践し、正しい判断ができる人材育成の羅針盤となっております。2019年度は、より理解・実践するために、決戦の日(全社勉強会)に加えて、石油部の所長ミーティング、No.2ミーティングや岡山ガラステクノで毎月1回勉強会を開催しています。また毎朝2名がフィロソフィをテーマにスピーチしています。



岡山ガラステクノ勉強会

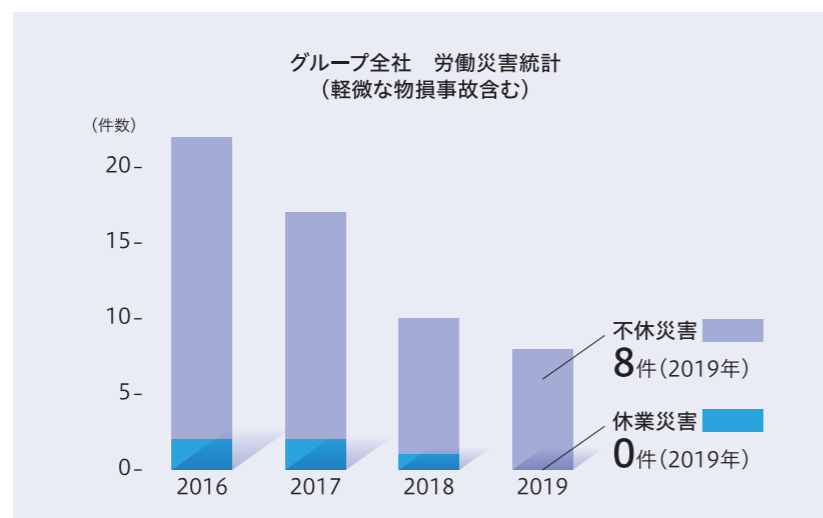
安全教育

私たちの職場環境は建築現場や山林作業などの危険業務や、危険物を取り扱う仕事もあります。従業員や協力会社の方が安心して働くため、営業推進と安全は車の両輪であるという価値観を共有しています。新入従業員入社時には安全教育も実施することで、安全意識の醸成に努めています。

2019年度に発生した労働災害は8件。休業災害ゼロで年度を締めくくることが出来ました。



新入従業員安全教育



安全パトロール

毎月1回、安全パトロールを実施しています。安全衛生のコンサルタントにも同行いただき、作業現場や事業所に潜む危険性・有毒性がないか確認し、改善指導・アドバイスを行っています。2019年はビル、工場、保育園などの建設現場の他、当社のサービスステーションや山林事務所でも実施しました。社長が同行することも多く、三現主義(現地・現物・現実)の実践および安全に対する意識付けに繋がっています。建築現場のパトロールでは、協力会社や元請け会社とコミュニケーションを取ることができる点も意義の一つです。実施内容は報告書にまとめ、全従業員と情報共有しています。



安全衛生の決起大会「安全大会」

安全大会は、安全衛生に関する決起大会です。安全衛生推進者である部門長を中心として、毎年1回、部門毎に現状と今後の取り組みについて発表しています。2019年から、安全に功績があった方を対象に、安全優秀者表彰を始めました。服部興業グループ従業員6名、協力会社1社が受賞しました。



外部顧問のご紹介

適切でタイムリーな経営判断を下すことが出来る様、各方面のスペシャリストをアドバイザーとして迎え入れています。特にガバナンスやコンプライアンスについては、外部の客観的視点を大切にしながら、より安全で正しい運営、そして広いフィールドでの企業活動を目指します。



会計士
井上公認会計士事務所
所長
井上 信二



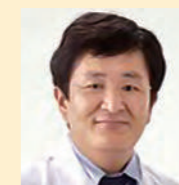
安全衛生
本郷労働安全コンサルタント事務所
所長
本郷 信夫



CSR
環境×スローライフ×CSR研究所
小桐 登



社会保険労務士
おかやま人事ネット21
中野花都江・事務所
中野 花都江



産業医
医療法人ゆずりはの木 理事長
脳神経外科・内科 眞壁クリニック 院長
眞壁 哲夫



教育
株式会社経営開発センター
矢田 昌宏

健全な企業風土づくり(人権)

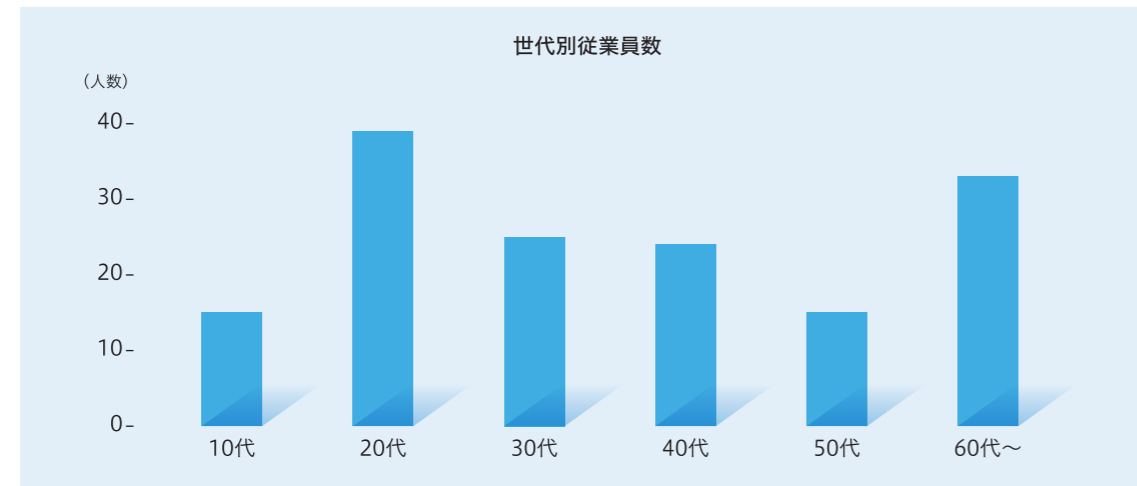
健康経営優良法人2020

昨年に引き続き、2020年2月に服部グループ全社が健康経営優良法人の認定を受けました。従業員が心身ともに健康に働き、それぞれの能力や個性を最大限発揮しながら毎日生き生きと働くことができる“健康人材”が集まる会社を目指しています。



従業員の意思を尊重した活躍の場

グループ全体で各世代バランスの取れた人員体制で技術継承などの世代交代が円滑に進んでいます。高齢者再雇用においても従業員の意思を尊重し多くの方が60歳を超えても一緒に働いています。2019年度は5名が定年退職を迎え、全員と再雇用契約を結びました。



時短勤務を活用して

妻の第三子出産後、子供の送り迎えや小学校行事に参加するため時短勤務を活用しました。9時出勤・17時退社で1時間の短縮勤務をして、業務と家事の両立をすることができました。改めて家事の忙しさを実感したと同時に、業務においても時間管理の重要性を再確認しました。

石油部 合田裕一

女性目線の改善活動「オリーブ会」

服部興業グループの女性従業員で月に一回集まり、働きやすい環境づくりを目的としてオリーブ会を組織しています。女性の声がか社を良くしていく仕組みとなっており様々な改善が行われています。

主な実績

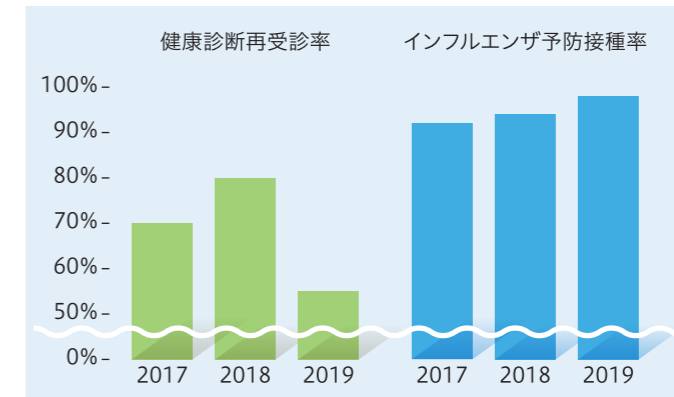
- ペーパーレスFAX導入
- 加湿空気清浄機の導入
- 社内置き菓子導入
- ズボン制服検討

置き菓子とはドリンクやお菓子、カップ麺等フード類の無人販売サービスです。補充や料金精算、メンテナンスは業者が行います。導入するまでは不安もありましたが、「ちょっとしたときに便利」「あると助かる」と好評です。



健康管理、健康維持

健康診断の結果が要再検査の従業員を対象に、受診勧奨を行っています。昨年と比較すると残念ながら再受診率は減少しています。安心して受診いただける環境づくりも目指していきます。インフルエンザ予防接種の費用を会社で負担し、感染予防や重篤化を防ぐことに努めています。



年次有給休暇取得義務化対応

2019年4月から、年5日の年次有給休暇取得が義務付けられました。服部興業グループでは、対象の全従業員が5日以上の有給休暇を取得しました。今後も仕事の進行状況についての情報共有を強化することで、休暇取得に向けた環境作りに取り組んでまいります。

ストレスチェック

労働安全衛生法では、労働者が50人以上の事業所に毎年1回のストレスチェックを義務付けています。服部興業グループでは50名を超える事業所はありませんが、従業員全員がWEBでのストレスチェックを受けています。ストレスチェックで医師による面接指導の対象と判定された方は、産業医との面談指導も受けることができます。



“出典：じぶんでできるMentalCareより”

社内グループウェアでの健康ワンポイント発信



“出典：全国健康保険協会HPより”

運動や食事、風邪予防など健康に役立つ情報を発信しています。毎月定期的に行うことで「健康」を意識してもらうようにしています。全国健康保険協会(協会けんぽ)がお勧めする健康レシピも案内しています。

ストレッチについて情報発信した際には、「新型コロナウイルスの影響で、社外に出る機会が減り、考え込むことが増え、腰が固まってしまっているようです。歩く、立って打ち合わせする等意識します。」といったコメントがありました。

従業員一人ひとりが活躍できる環境づくり(労働慣行)

グループ全体の目標共有の場「キックオフ」

4月と10月に半期ごとの部門・会社目標を発表します。目標を確認し全員経営で仕事に挑みます。キックオフ後には全員で昼食をとり、親睦を深めます。



グループ勉強会「決戦の日」

毎月1回、各部門・関連会社の成功事例を発表します。自部門へ水平展開したり、新たな気づきを得ることが目的です。

決戦の日の優秀発表者は、新年互礼会で表彰されます。リーダーシップを発揮し協力会社をまとめ、お客様に満足していただける施工管理を行った外壁部の発表やコミュニケーションと有意注意で新たな仕事につなげることができた土木資材部の発表など、2019年は7名が選ばれました。

表彰制度

新年互礼会にて資格取得者を表彰しています。

- 資格取得者 6名
- 決戦の日 優秀発表者 7名
- 無事故無違反 4名
- シニア敢闘賞 2名



年末の大忘年会にて“従業員投票”で選ばれた1年の功労者を表彰しています。服部フィロソフィ(p9)や多くの人を巻き込み協働する「オール服部」の実践、新しい事への挑戦など様々な点が評価のポイントとなっています。

- 服部アワード
- MVP 1名
- 優秀賞 3名



MVPに選ばれ感謝感激です！今後も社内環境改善・効率化がんばります！
総務部 浅沼将好

普通救命講習

5月18日、服部興業本社にて、普通救命講習を行いました。岡山西消防署様を招き、グループ従業員と協力会社の方を含め、計59名での開催となりました。昨年に引き続き、心臓マッサージや人工呼吸、AEDの使用について実技中心にご教授いただきました。2度目となる従業員も多くなりましたが、昨年の復習と救命技能の維持向上のためのよい時間となりました。



実践知研究会

4月から毎月1回、部課長を対象に経営コンサルタントの矢田昌弘先生による勉強会・実践知研究会を行っています。4～5人を1グループとして、仕事での悩みや新しいチャレンジなどについて先生やグループメンバーから意見をもらい自身の業務に活かしています。現地・現物・現実といった事実を確認する「三現主義」、1人の能力だけでなくメンバーの力を集結してよりよい結果をだす「集合天才」、「内発的動機」をキーワードにしています。



参加者の感想



自分自身では気が付かない視点・観点で意見をもらえ、営業や現場管理など業務で活かせることも多くあります。毎回新たな課題が出てきますが、前向きに取り組んでいます。

硝子部 高橋秀幸

山林研修

2019年度は新入従業員と入社2年目の研修生3名で3日間の山林研修を実施しました。主な内容は山林踏査、松茸山掃除、伐倒作業です。山林研修を通じて得た、安全第一で業務を行うこと、困難な仕事でもチームで試行錯誤しながら挑戦していくことなどの様々な気づきを自分の部門の業務にも活かしています。



誕生日会

毎年誕生日にお祝いとして社長直筆のメッセージカードとお菓子のプレゼントが届きます。また、誕生月のメンバーと社長でランチを囲む毎月の昼食会は、部門や世代を超えた貴重なコミュニケーションの機会になっています。

結婚・出産・新築お祝い

結婚・出産・新築のあった従業員にお祝い金が渡されました。2019年度は結婚2名、出産3名、新築1名でした。

新入学お祝いの会

毎年3月、次年度に小学校に入学するお子様を持つご家族を会社に招き、新入学お祝いの会を開催しています。社長からの話やお子様へ絵本、文具等をプレゼントします。お子様には「小学校に入学したら頑張りたいこと」を絵にして当日発表してもらいます。ご家族の方々にも、お父さん・お母さんがどのような職場でどのような仕事をしているのか知ってもらう良い機会になっています。2019年度は4家族、新一年生5名が対象でした。



2020.3.26

おかやま子育て応援宣言企業



岡山県が取り組んでいる「おかやま子育て応援宣言企業」になっています。これは働く人や地域における子育て応援を目的として企業・事業所の理解や協力を促す取り組みです。服部興業グループは仕事と育児が両立できる環境の整備として、テレワークの導入検討や新入学お祝いの会の実施、若者就労支援としてのインターンシップ開催を具体的な取り組みとしています。

対象者のコメント

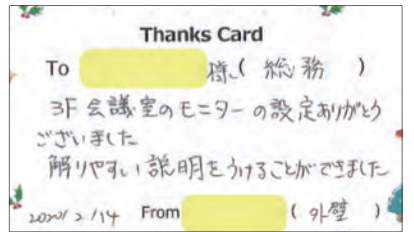


小学校に通う子供がいるため、学校行事や子供の急な体調不良等でお休みを頂くことがよくあります。その際にテレワークで自宅から業務を行えるのはとても魅力的です。まだ導入自体は道半ばですが、今後、制度が整備されるのを期待しています。

セメント部・土木資材部 後安真希

従業員相互のありがとうの繋がり「サンクスカード」

考働基本の一つ「感謝の気持ちを表そう」の実践としてサンクスカードの取り組みを行っています。業務内外での感謝の気持ちを名刺サイズ大のカードに記入し掲示板に掲示、記入されたカードは給料明細と一緒に受け取る方へ渡されます。2019年度は3,645枚でした。



社内旅行

毎年、服部興業グループ従業員を2グループに分け社内旅行を行っています。仕事を離れた場で、年代・部門問わず親交を深めるよい機会になっています。「旅行実行委員」が計画し、プラン作成やアテンドを行っています。2019年は湯布院・博多に行きました。



2019.7.6

岡山ロータリークラブ優良従業員表彰

岡山RCの会員企業103社の中から、当社1名を含む計14名が表彰を受けました。

受賞者の感想



今年で入社して23年、市街を走っているとこれまで携わった建物を多く目にします。どの現場も多くの方にお世話になったという感謝の気持ちでいっぱいです。今後も若手の人材育成に努め、会社の発展に貢献できるよう頑張ります。

外壁部 二田亮



岡山RC優良従業員表彰式 令和元年10月23日 於 ホテルグランヴィア岡山

持続可能な環境への取組み(環境)

東京五輪ビレッジプラザへのSGEC認証ヒノキ材を提供

東京オリンピック2020のプロジェクトの1つ「日本の木材活用リレー～みんなで作る選手村ビレッジプラザ～」で当社山林の60年生ヒノキ材が使用されています。このプロジェクトは「全国の木材で一つの建物を作ることで、オールジャパンの大会参画を実現し、各地の木材を建物の様々な箇所に使うことで多様性と調和を表現(東京オリンピックHPより)」するという趣旨の取り組みです。63の自治体から木材が集められており、その自治体の1つが真庭市で、当社山林のSGEC認証のヒノキ材を納めました。

1月30日に開催された内覧会には従業員も参加しました。当社の木材が使われた建築物を実際に目にすることができた大変貴重な経験になったと同時に、東京オリンピックという国を挙げての一大イベントに仕事を通じて参加できることを改めて大変誇らしく感じました。



2020.1.30
レシプロカル架構

旭川一斉清掃参加

8月4日、岡山商工会議所主催の旭川一斉清掃に服部興業グループの従業員と家族、計15名で参加しました。朝7時から後楽園の外周を約1時間半にわたって汗だくになりながら清掃しました。今話題となっているビニール袋などのプラスチックゴミが散見され、環境について考える機会にもなりました。また、参加した子どもたちには従業員との交流がよい思い出になったようです。今後もこのような活動を通じて快適な地域づくりに貢献していきます。



希少種の報告(山林部ブログ)



2019.4.15

コテングコウモリは岡山県版レッドデータブック2020で絶滅危惧Ⅰ類に分類されるヒナコウモリ科の種です。個体数はそれほど多くないと予想されていて、詳しい生態の多くも不明です。2019年度は山林部ブログ・山の便りを通じて、社有林周辺の動物、植物、昆虫など25回の情報発信を行いました。

ペーパーレスFAX導入

ペーパーレスFAXとは、FAX受信した文書を印刷せずにデータ化して保存する方法で、受信・編集・送信がパソコン上で行えます。1月から導入を開始し、3月16日より本格始動いたしました。3月31日までの約2週間で1,184枚の紙削減に繋がりました。

エコキャップのリサイクル

昨年に引き続きペットボトルキャップの回収に取り組んでいます。家庭で集めたキャップを持ち込む従業員も増え、リサイクルについての意識が高まったと感じます。



2019.12.7

2019年度寄付数量

個数	重量(kg)	CO ₂ 削減(kg)
11,610	27	85.05

岡山ガラステクノ事務所および倉庫LED化



器具の老朽化および一部水銀灯を使用していたこともあり、照明を全てLEDに変更しました。これにより、電気代削減(約70%)、球の寿命向上(約3倍)、CO₂排出量削減(約70%)に期待できます。合わせてスイッチ区画も見直し、効率化も図りました。

本社1階内窓取り付け

本社1階の窓にLIXILの高断熱サッシである内窓「インプラス」を取り付けました。

インプラスは樹脂製で熱伝導率が低く、断熱効果に優れています。また、外気温の影響も受けにくいので快適な室内環境を整えるほか、冷暖房の効きもよくなります。そのためエネルギー消費が抑えられ電気代の節約になり、CO₂の削減にも繋がります。

打ち合わせはサッシ部、サッシ枠となる材料の木材は岡山木材市場から、施工は岡山ガラステクノで行いました。また、LIXILと東京電力が夏と冬の室内温度と使用電力のデータ集計を行う計画です。この取り組みを営業展開し、快適な職場作りの提案にもつなげます。



2020.3.18

法令を遵守した事業活動(公正な事業慣行)

建設キャリアアップシステム登録

建設業における技能者の就業実績や資格を登録・蓄積し、公正な評価や工事の品質向上、効率化を目的としたシステムです。適切な社会保険等の加入助長にも繋がるため、今後建設業界全体でシステムを浸透させていくことが求められています。当社では一早く登録を完了させ、協力会社に対しても登録のフォローを行っています。



緊急時対応訓練



山林部の事業である林業は危険と隣り合わせの職種であり、緊急時対応の方法を具体的に知っておく必要があります。7月23日、地元消防署の協力を得て緊急時対応の訓練を行いました。チェーンソーで足を負傷したと想定し、負傷者の救護要請から救急連絡救護の仕方、車までの搬送の流れを中心に学びました。今後も様々な想定で訓練を行い、万が一に備えます。

荒木組優良協力会社賞受賞

株式会社荒木組様(総合建設業)より優良協力会社として硝子部が表彰を受けました。川崎医療短期大学学生寮耐震改修の硝子工事にて、安全衛生方針をよく理解し、リスク低減を積極的に取り入れた自主的安全衛生活動に取り組み、無事故無災害に貢献した協力会社として評価していただきました。今後も安全を最優先した工事を実施していきます。



自由研削砥石特別教育



資格取得だけでなく、法令に則った技能講習・特別教育等を受けるようにしています。今回、山林部と岡山ガラステクノが受講した自由研削砥石特別教育のように、講師を招いて社内でも実施することもあります。知識、技能、経験、様々な角度から従業員のスキルアップに努めています。

お客様の安心と満足のために(消費者課題)

障がい者対応講習



9月27日、岡山県社会福祉協議会の協力を得て、社会福祉法人旭川荘の方を講師に招き、障がい者対応講習を行いました。服部パーキングと服部興業の計12名が参加し、外見だけでは判断できない様々な障がいがあることを学びました。障がいのある方に限らず利用されるすべての方々に優しく笑顔で接し、人と人のつながりを大切にしていきたいと感じました。

新車販売事業スタート

9月から、石油部でオートローンを利用した中古車、新車販売の提案を始めました。中古車、新車、以前より取り扱いをしているリースと幅広く対応できるようになりました。今後お客様の様々なご要望に応えられるように、またお客様にとってベストな提案ができる様に対応力向上に努めます。

店舗の清潔・衛生調査

石油部サービスステーションのクレンリネス(店舗の清潔・衛生)についての本社メンバーが行うREX調査を毎月行っています。

普段働いているメンバーからすると当たり前に見えることでも、一歩離れた視点でみると改善の芽が多く見られます。クレンリネスの行き届いた店舗でお客様をお迎えできるよう、今後も5S(整理・整頓・清掃・清潔・躰)に力を入れていきます。



ミステリーショッパー(顧客満足度調査)

石油部サービスステーションでは毎年2回元売りのJXTGエネルギーから一般の調査会社に依頼しサービス(接客)&クレンリネスの覆面調査を実施しています。内容は、入店~退店までのスタッフの一連の接客やトイレ、洗車機などの施設の清潔さなど細かいチェックがあります。その後、結果を基に振り返り、課題の抽出、対策、改善を実施しています。サービスステーションはお客様と身近に接する機会が多いので、常にサービス向上を追求していきます。2019年度は、Dr.Driveセルフ平野SS、Dr.Driveセルフ花尻SSが4ランク中最上級の『Sランク』を頂きました。

地域の皆様とともに(コミュニティへの参画)

ファジアーノ岡山スポンサー招待デー

2008年のJ2昇格当初から、オフィシャルスポンサーを務めています。2019年のオフィシャルスポンサー招待デーは6月15日に行われた、ファジアーノ岡山VSレノファ山口でした。天候はあいにくの雨となりましたが、従業員とご家族、お取引先の方など多くの方にご参加いただき、服部興業グループ関係者569人(総入場者数8,025人)で試合を観戦しました。



©FAGIANO OKAYAMA

参加者の感想 (従業員家族)

今回孫がエスコートキッズに参加させていただきました。ファジアーノの選手と手をつないで堂々とピッチを歩く孫の雄姿をドキドキしながら応援しました。これからの孫のサッカー人生(大げさですが)にとって良い経験になったと思いますし、私にとっても良い思い出ができました。

ファジアーノ岡山U-14講演会

11月6日、ファジアーノ岡山のU-14キャリア・デザイン・サポートプログラム「よのなか科」で、当社の社長がU-14の選手とその保護者、チーム関係者、約40名を対象に講演を行いました。服部興業グループの大切にしてある考え方やCSR・SDGsの取り組みなどについて話をしました。U-14選手からは、「今まで企業人という立場の人から話を聞く機会がなかったのでとても新鮮だった」と感想を頂きました。キャリア観醸成の一助になれば幸いです。



©FAGIANO OKAYAMA

おokayamaマラソン2019

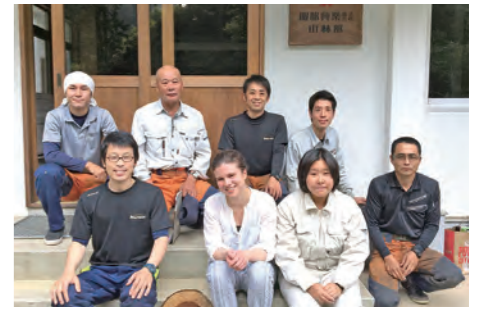
11月10日、第5回おokayamaマラソン2019が開催されました。服部興業からは5名がボランティアとして参加し、35km地点の給水所でランナーへ塩タブレットやゼリーなどの給食を配布しました。給水所隣の岡山木材市場ではボランティア向けに駐車場と休憩所を提供し、メンバー総出で沿道で応援しました。ランナーとして参加している知人、取引先の方も多く、声援を送ったり、ハイタッチを交わしたりと普段とは違うコミュニケーションのよい機会となりました。

服部興業グループからは3名が出走し、無事42.195kmを完走することができました。



岡山大学国際インターンシップ「Co-opプログラム」

山林部では、岡山大学とカナダブリティッシュコロンビア大学(UBC)、県内の木材関連企業が連携して行っている国際インターンシップ「Co-opプログラム」に参画しています。2019年は6月3日から21日の3週間、UBC学生1名と岡山大学生1名を受け入れました。学生には、従業員として日々改善提案を出しながら働くこと、山の価値を再発見して発信すること、林業での女性の働き方を考えることなどを目的としました。実践知の機会を与えることができたとともに、我々も自己研鑽することができる貴重な機会になりました。



中学生のための職場体験



サービスステーションで中学生の職場体験を受け入れています。Dr.Driveセルフ平野SSには吉備中学校、Dr.Drive倉田SSには操南中学校、Dr.Driveセルフ花尻SSには御南中学校、セブンイレブン岡山古都宿店には旭東中学校の生徒が職場体験に来てくれました。



11月20日から22日の3日間、DDセルフ花尻SSに御南中学校の生徒3名が職場体験に参加してくれました。挨拶やガソリン割引券の配布などのカリキュラムでお客様とコミュニケーションを取るよう積極的に促しました。初めは緊張しているようでしたが、最終日には生徒自身が自発的に行動できるようになっていました。後日生徒からお礼のお手紙をいただき、「覚えることも多く大変だったが楽しかった」と感想をもらえました。今後もこういった地域貢献に積極的に取り組んでまいります。

Dr.Driveセルフ花尻SS 妹尾敏弘

産学連携環境教育

8月26日、真庭市と連携し、SDGsについて学んでいる慶應義塾中等部生(中学生)7名と先生方6名を受け入れ、山林部従業員が環境教育を実施しました。落合にある慶應義塾学校林でLEAFプログラム(Learning About Forests、森林産業の普及啓発のために開発されたプログラム)を実践し、目隠しをして木の匂いを嗅いだり、中の見えない袋に入った木の葉を探し当てたり、目をつむって聞こえた森の音を絵に表したりしました。SDGsについて学びながら少しでも森の良さや環境面での役割が伝わっていれば幸いです。



第11回平井まつり

10月26日、第11回平井まつりが行われました。岡山木材市場は第2回から毎年参加しており、木工教室とヒートペンを使ったストラップづくりを行っています。今回の木工教室では国産の杉板を加工して椅子を作りました。平井まつりを通して、木材をより身近に感じてもらうことができ、また親子のふれあいのお手伝いできて大変うれしく感じます。



おかやま環境教育ミーティングへ参加しました



8月5日に第7回おかやま環境教育ミーティングが開催され、山林部を含む県内の企業、環境関係の団体・NPO、中高大学生など240名が参加しました。環境教育に携わる人が、つながり、学び合い、輪を広げる場として毎年行われています。

当社は初参加でしたが、たくさんの方と情報交換ができ、様々な取り組みを知ることができました。また、取り組みを発信して、多くの人に知ってもらうことも重要だと感じました。

森づくり体験指導

真庭市中和地区にある「真庭・トンボの森」にて、山林部が一般社団法人おかやまエコサポーターズと共に岡山市立岡山後楽館高等学校の生徒に森づくりの体験指導を行いました。この学習は、同校の「まちなかのふるさと教育」(持続可能な社会の形成者を育成する地域学習)の一環です。参加した生徒18名を対象にノコギリを使ったヒノキの間伐指導を行いました。



生徒の感想

- ・私たちの生活の中で、自然と多くかかわっていることを改めて認識しました。
- ・初めて自分で木を切ったり、皮むきをして、普通ではできない体験をすることができたので、良い体験になったし、とても楽しかった。

当レポートの感想をお聞かせください



任意団体 「CSR報告書を読む会」について

代表幹事 川元 盛樹

2019年度 服部興業グループCSRレポート第2号の発行に当たり、第三者意見を担当する「CSR報告書を読む会」は、2011年より岡山県で、「組織の社会的責任についての調査・研究と勉強会の開催」を主な事業として活動している団体です。

地元岡山を持続可能な地域にすべく、その実現に大きく関わる企業にスポットを当て、社会的責任に取り組んでいる優良な事例を紹介し、ボトムアップを図ろうという意思を持ったメンバーが集まり活動しています。

勉強会では、岡山県内の企業を対象に企業やすべての団体・組織に適用可能な社会的責任に関する国際規格ISO26000を参考のガイドラインとして活用し、企業からゲストを招き、組織の社会的責任に関する活動を紹介した報告書や発表内容について、参加者と共にわからないことを確かめたり、意見交換を行い、対話を通じて学び、理解を深めています。

今回のレポートを昨年と比較すると、取り組み内容が整理されておりSDGsへの理解が社内全体で深まっていることが読み取れます。

SDGsと合わせる形で新型コロナウイルスへの対応を展開するなど、コロナ禍後をしっかりと見据えた形式となっていることも分かります。特に環境分野での取り組みがより洗練されてきています。

貴社が気候変動に向けて具体的に取組まれている内容がわかりやすく説明されており、企業理念と呼応する形で事業を通じて果たすべき役割が明記されている点は、社会的インパクトとなります。

新型コロナウイルスが経済にもたらした影響は計り知れないものがあり、リーマンショックを上回ることも指摘されています。そのような状況の中で、企業が存在価値を高めながら社会への貢献を果たしていくことは決定的に重要なことです。

私たちの活動が貴社の今後の発展に寄与し、企業活動に少しでも貢献できることを心から願っています。



代表幹事
川元 盛樹
岡山県労働組合会議

特筆すべき点

労働時間等の設定の改善に関する特別措置法の改正により、2019年4月から「勤務間インターバル」の導入が事業主の努力義務となりました。しかし、国内での取り組みは不十分な状況が続いています。

そのような中で、退勤から出勤まで「10時間のインターバル」を導入するという取り組みは先進的な事例になるといえます。そして、子どもの看護休暇等で休んだ場合のテレワークの導入はぜひ継続してもらいたい点です。男性の育児参画を促すという点でも効果的な取り組みとなるのではないのでしょうか。

さらなる取り組みを期待する点

日本は長時間労働大国であると指摘されて久しいですが、コロナ禍でのリモートワークの普及で今後は大きく働き方は変わっていくものと予想されます。現在の労働法では労働時間は1日8時間、週40時間とされていますが、この考え方も揺らぎ始めています。所定労働時間の短縮に向けた検討をされ、働き方の新しいスタンダードを岡山の企業として発信されることを期待します。



幹事
石原 達也
特定非営利活動法人
岡山NPOセンター
理事長

特筆すべき点

一つには地域の高校生や大学生などの受け入れや留学生の受け入れなどの次世代育成に関わられていることです。森づくりは百年の計と言われるように世代を超えていくことが必要です。さらに積極的な取り組みを期待します。また、組織統治の面で外部顧問を積極的に活用している点も素晴らしいと思います。

そして新型コロナウイルスへの対応についてCSR・SDGsの観点も加えられたことは特筆すべきことです。

さらなる取り組みを期待する点

新型コロナウイルス等のことを踏まえても、健康づくりはこれから重要なポイントの一つと考えます。

すでに健康経営優良法人にも加わられておられますが、さらに各自自治体の健康関係の事業への参加をするなど積極的な参加を期待します。

また、今後、グローバルと共に内需への意識も新型コロナウイルスの影響で変わってきた点もあると考えます。森林環境税の取り組みも始まった中、地域の木を地域で使うという点での取り組みをさらに期待します。



幹事
築谷 淳志
公益財団法人
岡山県環境保全事業団

特筆すべき点

貴社のCSRレポートも2年目となり、県下の社会インフラを提供し続ける企業として、情報開示を継続されていることに敬意を表します。前回と比較して、結果と次年度目標の併記、達成に取り組むSDGs増加、ほぼ全ての目標に数値指標を挿入、社員や協力者を写真やコメント付で登場させるなど、取り組みの意義と読者の理解を、さらに深める意欲を感じました。

さらなる取り組みを期待する点

理念やビジョンに至る通過点として、短期～中長期の目標をより具体化し結果を評価、次の改善に繋げていくことに、成長の余地があると考えます。個々の目標が、会社や顧客、社会に対してどのような付加価値を提供するものか、理念やビジョンとどうつながり、中長期的にはどのような行動、成果を実現したいのか、などを文書化し情報発信してはいかでしょうか。複層ガラス、内窓、耐震パネルなど環境・安全の確保に貢献する商材・サービスが、利益と信頼確保を両立できる優先順位の高いテーマだと考えます。新型コロナウイルスの影響は依然不透明ですが、自社の環境負荷を定量的に把握して削減すること、BCPの策定と教育訓練を行うことも、貴社の持続的活動を実現するために、必要な取り組みと考えます。



幹事
小桐 登
岡山県ボランティア・
NPO活動支援センター
CSR担当

特筆すべき点

昨年と比較して、SDGsに関するグループ内の理解が深まったことが感じられました。トップメッセージや新型コロナウイルスへの対応、事業部門ごとの目標達成の結果、次期目標の設定及び各事業の取り組みから読み取れます。定期的な勉強会、教育活動が事業の成果につながっていると思われます。社員一人一人を大切にすることで、社員満足度が高まり、顧客満足、社会満足へとつながります。継続した活動を期待します。

さらなる取り組みを期待する点

新型コロナウイルスはリスクと共に新たなビジネスチャンスを生み出すきっかけとなります。BCP対策の明文化や同業や異業種との連携による本業での新たな社会貢献を期待します。